6. 量的安全度の向上

治水対策整備メニュの検討フロー

量的不足箇所の抽出

治水対策視点に 基づく対策案の検討 (安全、安心、公平性、 環境、効率性)

評価

安全、安心、公平性、 効率性(経済性)、環境

検討6ブロックの分割

岩出狭窄部、藤崎狭窄部、 慈尊院、小田狭窄部、 橋本地区、五條地区

各地区の特性に応じた治水対策の整理

量的安全度の向上の ための治水対策案の 決定

河川整備計画検討における前提条件

大滝ダム

河道

(現況の前提条件)

1,200m³/s 一定量放流

現況河道





(30年後の目標)

2,500m³/s 一定量放流 S34.9型洪水の 流下河道断面を目標

大滝ダムの放流方式について

- ・現況の大滝ダム地点の流量が1200m³/s程度を超えるとダム下流(県管理区間)で家屋被害が発生する。
- •1200m³/sで洪水調節した場合、中小洪水に対しては有効に効果を発揮するが、S34.9型等の洪水に対しては大きな効果を発揮しない。
- ・概ね30年後の下流の整備状況に合わせ、大滝ダム の治水容量を最大限活用した2500m³/s一定量の 放流方式を整備計画の目標とする。

大滝ダムによる氾濫現象の変化(1)

【大滝ダム1200m³/s一定(現況)】

【大滝ダム2500m³/s一定(現況)】



大滝ダムによる氾濫現象の変化(2)

【大滝ダム1200m³/s一定(現況)】

【大滝ダム2500m³/s一定(現況)】



検討6ブロックの治水メニューの考え方

計画目標規模を安全に流下させる整備メニュー



築堤、掘削、最小限の井堰の改築 による氾濫解消



・計画を上回る洪水の対応策



・委員からの提案による遊水地の可能性 上野地区

安田嶋地区

二見地区

委員から要望のあった遊水地検討の流れ

【第9回流域委員会】

自然破壊型の対策ではなく、遊水地等の自然と共存する対策を考えて欲しい。



【第10回流域委員会】

委員から遊水地の候補地を7箇所提案



【橋本市】岸上地区、安田嶋地区

【九度山町】安田嶋地区

【かつらぎ町】新田地区、島地区

【那賀町】穴伏地区

【粉河町】嶋地区、遠方地区



【第11回流域委員会】

委員提案の2地区の遊水地候補地を詳細 検討



【五條市】上野地区 【九度山町】安田嶋地区



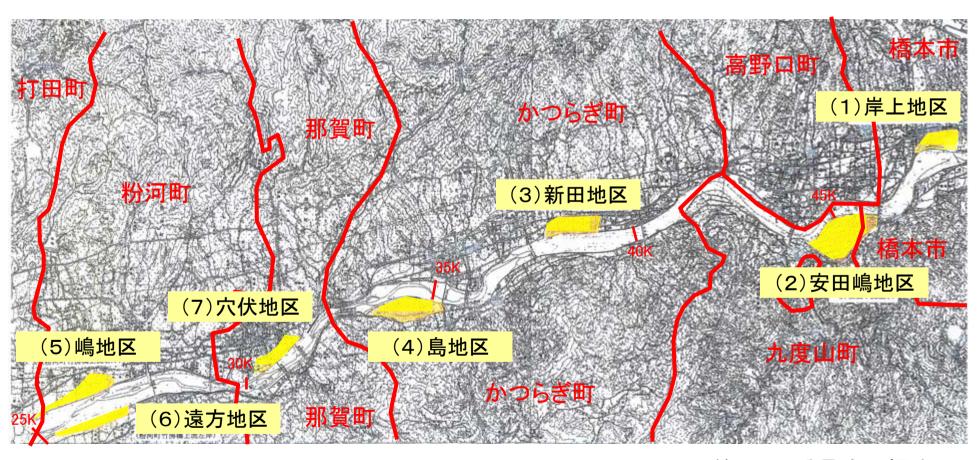
【第12回流域委員会】

委員提案の4地区の遊水地候補地を詳細 検討



【五條市】野原地区、二見地区 上野地区 【九度山町】 安田嶋地区

委員会で委員から 提案された遊水地候補地



※第10回委員会で提案

具体的な河川整備メニューの考え方(1)

昭和34年9月洪水における氾濫解消を目標として、対策案を検討 (氾濫解消) (壊滅的な被害の回避)

岩出狭窄部

【案1】

岩出井堰部分改築 掘削

計画を上回る洪水が発生 した場合、人口・資産の集 中する下流域へ被害拡大

(氾濫解消)

【案1】

掘削 築堤(麻生津)

景勝地で鳥類等の良好な 生育地となっている中州の

掘削が必要

【案2】

岩出井堰全面改築

全面改築により計画を上 回る洪水にも対応。かつ、 将来手戻りが生じない。

> 【環境への配慮】 堰を全面改築することで改 築後の河床変動を期待

(環境への配慮)

【案2】

藤崎井堰全面改築 築堤(麻生津) 堤防強化対策

中州の掘削を回避する代替として、堤防強化により破堤しにくい堤防整備

藤崎狭窄部

具体的な河川整備メニューの考え方(2)

昭和34年9月洪水における氾濫解消を目標として、対策案を検討

(氾濫解消)

【案1】

小田井堰部分改築 築堤(安田嶋) 掘削

固定堰の存在により下流 断面を確保できない。 堰の左岸が固定部である。 【環境への配慮】

堰を全面改築することで改 築後の河床変動を期待

(環境への配慮)

【案2】

小田井堰部分改築 築堤(安田嶋) 堤防強化対策

掘削を回避する代替として 堤防強化により破堤しにく い堤防整備。

(遊水考慮)

【委員提案】

游水区域(安田嶋)

下流への流量低減

小田狭窄部

具体的な河川整備メニューの考え方(3)

昭和34年9月洪水における氾濫解消を目標として、対策案を検討



具体的な河川整備メニューの考え方(4)

昭和34年9月洪水における氾濫解消を目標として、対策案を検討

(氾濫解消)

五條市域 築堤 (上野) (氾濫解消) 五條市域 築堤 (二見) (氾濫解消) 五條市域 築堤 (野原、牧、小島)

(遊水考慮)

【委員提案】 游水区域

下流への流量低減

(遊水考慮)

【委員提案】 遊水区域

下流への流量低減